つるさき

発行所
鶴崎神社
早島町早島2220
〒701-0304
TEL FAX 482-0097
URL
www6.ocn.ne.jp/~turusaki/

荒神社（西田）

荒神社は、倉稲魂神（うかのみたまのかみ）を祭神とし、倉敷市西田の氏神として祀られている。

倉稲魂神は宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）とも記し、須佐之男命と神大市比売（かんおおいちひめ）の子で大年神（おおとしのかみ）の妹にあたる。古代の穀物霊で「五穀の神」として全国の稲荷神社の主祭神として祀られている。

荒神社の社名は古くは三宝荒神社と称され、元禄年間（1688～1704）に創建されたとされる。

祭典は、春祭を五月、秋祭を十月に執行している。

また、境内には木野山神社（高梁市今津）を本社とする「木野山神社」が祀られており、七月の本社祭礼に合わせて代表者が本社に参拝し、疫病消除の神札を受け氏子に授与し、祭典を執行している。

境内には茅の輪を設け疫病除けの輪くぐりも行われる。

昭和三十八年一月十八日鶴崎神社に合併し、同社の飛び地境内神社となる。

神道Q&A

【質問】

十月になると当番で荒神様のお祭りの準備をしていますが、荒神様とはどんな神様で、何故十月二十七日に行うのですか。

【答え】

荒神様は文献的には古事記に「熊野山の荒神」とあるのが初見で、「荒振神」という語が同時に用いられており、古代では「アラブルカミ」と言われていたのかも知れません。荒神は全国各地に祀られており、その信仰は実に多様化しています。

地域的にも著しい違いがありますが、大別すれば次の三つが代表的な荒神の性格となります。

①火の神・火伏せの神の性格を持つもの。

②屋外に祀り、屋敷神・同族神・地区の神・産土神の性格を持つもの。

③牛馬の守護神

荒神様の祭りは、荒神籠（こうじんこも）りや荒神講（こうじんこう）等と称して、それぞれ輪番（りんばん）で頭屋（とうや）（当屋）を決め正月、五月、九月を中心に荒神を拝みながら夜を明かす「お籠（こも）り」が行われていました。

（荒神神楽）

一般の神社で行われる祭典というよりは、民間信仰の色合いが強く、人々の生活の中では氏神様より身近で、最も密接な繋がりを持っています。

従って、子供が産まれると先ず荒神様へ報告に参拝し、その後に氏神様で初宮参りを行っていました。

当社の氏子中にある荒神社の祭神は、荒神社（倉敷市西田）を除きほとんどが火之迦具土神（ほのかぐつちのかみ）をお祀りしています。

この神は伊邪那岐命（いざなぎのみこと）、伊邪那美命（いざなみのみこと）が最後に産んだ神で、火の神又は火伏せの神として秋葉神社等に祀られています。

また、祭礼日は多くの荒神社が十月二十七日を荒神様の日として、祭りを行ないますが、全国的には荒神様の日は二十八日となっています。

しかし、古来は太陰暦を使用していましたので、現在のように一日の始まりは午前〇時からではなく、夕刻から始まっていました。そうすると、二十七日の夕刻から始まる祭りは、二十八日であったとも考えられます。

何故二十八日を荒神様の日としたのかは、定かではありませんが、二十八日は太陰暦では新月を迎える頃という説や、荒神様は不動信仰と強い結び付きがあり、お不動様の縁日が二十八日であったという説などがあります。

荒神社（無津）を改修

当社の飛び地境内神社として無津地区の氏子でお祀りしている荒神社の社殿が老朽化し、改修を余儀なくされたため、この度内祭用の本殿を改築し、覆殿（おおいでん）を修理し八月に完成した。

平成十八年七月十五日社殿改修工事開始に先立ち氏子の奉仕により、御神体を無津公民館の仮殿にお遷しする仮殿遷座祭（かりでんせんざさい）が夕闇迫る中、厳かに執行された。

その後、改修工事は順調に進み、美しく完成した覆殿に真新しい本殿が安置され、八月二十六日夕刻、氏子が威儀（いぎ）の物を捧持（ほうじ）して、無津公民館の仮殿から御神体をお遷しする本殿遷座祭（ほんでんせんざさい）が厳粛に執り行われた。

また、当日は稲荷神社の宮形も新しく整え、荒神社の本殿遷座祭に先立ち氏子が参列して宮形新調奉告祭を執り行った。

（改修された荒神社）

秋祭の予定

秋季大祭　十月十四日（土）　午前十時～十一時三十分

【特殊神事・供膳祭】総代、幹事により三十台の特殊神饌を神前にお供えします。夕刻から夜店も出ます。

神幸祭　十月十五日（日）午前九時～午後二時三十分（雨天中止）

午前八時の花火で執行の合図とします。午前九時の花火の合図と共に神幸行列が神社を出発します。各御旅所を巡幸して午後二時三十分頃に神社へ還御されますので、沿道に出て神輿を奉拝下さい。

「七五三」祈祷

七五三は子供の無事な発育を喜び、なお一層の成長を願って氏神さまに詣でる行事です。

古来は男女三歳で髪置きの祝い、男児五歳で袴着の祝い、女児七歳で帯解きの祝いを行ったことに由来します。

当社では十一月十五日を中心に七五三祈祷を奉仕致します。

十一月十一・十二・十五日に祈祷予定の方は予約はいりません。その他の日に祈祷希望の方は前もってご予約下さい。

祝 秋篠宮悠仁（ひさひと）親王殿下ご誕生

秋篠宮妃殿下には、本年二月にご懐妊と報じられ、妃殿下のご静穏とご安産を祈年申し上げてまいりましたところ、九月六日悠仁親王殿下がご誕生になり、皇室のお慶びは申し上げるまでもなく、国民にとりましても誠に悦ばしく、ここに謹んでお祝い申し上げる次第であります。

今後の親王殿下のお健やかなご成長と妃殿下の順調なお肥立ちは申すまでもなく、皇室の弥栄を心から祈念申し上げます。

女性天皇と女系天皇の違いとは

昨年から今年にかけて皇室典範改正問題が議論されています。

「皇室典範に関する有識者会議」の報告書では「男女平等」や「分かりやすさ」を理由に、皇位継承順位は「男女を問わず第一子優先」が適当としています。

天皇の皇位は、建国以来第一代神武天皇から一二五代にわたり、男系による継承を原則としてきました。

過去には八人の女性天皇がおられましたが、いずれも男系の女性天皇であり、そのほとんどは、次の「お世継ぎ」が成人されるまでの「中継ぎ」として即位されました。

もし、報告書にもとづいて、将来「女系天皇」が即位されたとすると血のつながり方が変わってしまうため、男系継承の伝統が途絶えてしまいます。

分かりやすく説明すると、日本は古くから、皇室と同じく「男子が家を継ぐ」という文化を持っています。これは女性軽視の意味ではなく、私たちが受け継いできた伝統で、現在でも自然で一般的な考え方と言えます。

家を継ぐ条件として第一子優先としている家庭はほとんど無いのではないでしょうか。

天皇家の皇位継承においても、この伝統を守り、受け継いで来ました。その期間は二六六六年、これほど長い間皇位が一つの血筋で守られてきた国は世界中で日本だけです。

そして、今回の改正論議の大きな問題は、皇室の方々のご意見を全く聞かずに進められている事です。もし、自分の家の後継者の問題を勝手に決められてしまったら…

祭事暦

十月十四日（土）［午前十時］
秋季大祭【供膳祭】
十月十五日（日）［午前九時］
神幸祭
十一月中　七五三祈祷
十一月二十三日（木）［午後二時］
新穀感謝祭
一月二日（火）［午後二時］
年始祭
毎月一日［午前九時］月次祭